

山 行 報 告 書

山行報告者: 加藤

山 域・山 名: 谷 川 岳 天神尾根 (1,977m) (群馬県みなかみ町・新潟県湯沢町)	
入山日又は期間: 平成31年1月3日(木) 日帰り	
プラン担当者 正: 岩田 副:	
者 参 加	L: 岩田 記: 加藤 報: 田島 岩田、中村、平野、金澤、箕島 田島、加藤 男4名、女3名、計7名
	天候: 雪
1月3日 (木)	<p>集合時間: 午前6:05、集合場所: 北本駅西口、 6:05 北本☐東松山IC 関越道☐水上IC☐9:20 ロープウェイ駐車場着 9:55~10:10 ロープウェイ、10:30 頂上駅出発(1320M)~11:20 小ピーク(1465M)~12:10 熊穴沢の頭(1465M) *ここで退却する ~12:50 小ピーク(1460M)~13:10 頂上駅着 *行動時間2時間40分 指導センター付近でアイゼン歩行練習(希望者のみ)30分くらい 15:10 頃ロープウェイ駐車場出発~18時頃北本駅着、解散</p>
装 備 と 食 糧	<p>共同装備: 無線機(岩田、平野)、GPS、ツェルト(岩田、会2) 共同食: なし 車提供者: 岩田、田島</p>
	<p>個人装備: ヘッドランプ、防寒衣、コンパス、地図、ワカン、10~12本アイゼン ピッケル、スパッツ、ゴーグル、目出し帽、オーバー手袋、テルモス 携帯電話、ストック、ホッカイロ 個人食: 行動食</p>
感 想 & 要 注 意 事 項	<p>冬山装備も新品だらけならば、冬の谷川も初めてというバリバリの初心者マークでの参加。麓の水上の町は、2メートル近い雪の底に既に沈みかけていて、止まない吹雪の中、小さな人間たちが小さなシャベルや機械を使って黙々と雪を掻いているのが印象的だった。子供の頃の田舎の風景を思い出した。</p> <p>ロープウェイで山頂駅まで行き(スキューの時もそうだが、ロープウェイやゴンドラの中でみな一様に押し黙ってしまうのが不思議だ...)、装備の準備と記念撮影の後、天神平スキー場の横のトレース沿いに行動を開始する。アイゼンはつけず、ワカンにストック。何組かの小グループと個人が先行しており、50センチほどの深さでつけられたトレ</p> <p style="text-align: center;">次ページへ続く</p>

スを漕いで、ほどなくその何組かを追い超す...

吹雪の勢いはどんどん増していくようで、風の音と自分の呼吸の音以外何も聞こえなかった。前に行く人たちの突くストックの穴が、底の方が青く発光して、極地の海の氷山の青さを連想した。不思議な美しさだった...

途中小休止を挟んだが、この時にポケットから取り出したカロリーメイトが凍っていて困った。前歯が折れるかと思った...

小ピークで先に休憩していたグループがいて、「追いついたんなら先に行け」と言っていた。その先はトレースが埋まりかけていたからなるほどと思ったが、雪のない山も岩場も、山の世界には概して何か暗黙のルールというかその場のさばき方のようなものが熟達者の領域にはあるようだが、ここはよくわからなかった...

熊穴沢の頭まで行ったところで、その先の急斜面を降りずに撤収。ここへきて風がますます強まり、両足で踏ん張って風の塊をやり過ごす感じだった...

往路で踏んできたはずのトレースが戻るころにはもう埋まっていたのには驚いた... かつうじて風上側のエッジが見えた。先頭を交代しながら無事スキー場まで降り着き、頂上駅に帰還...

...やっぱり雪はいいと思った。のちのちと積んだ雪も、音もなく降りこめる雪も、そして今回のように荒れ狂う雪も、どこかカーンと静まり返った‘清涼な底’が流れている。自分にとって雪は怖いものだが、一方でどこかで懐かしがってもいるのは、たぶんその静謐さに対する恋慕だろう...

リーダーの岩田様を始め、メンバーの皆様、ありがとうございました...